栄南中学校進路通信　　第１１号
発行日：令和　７年　４月２３日
発行：「進路希望調査用紙の提出締切は、２８日（月）です。」進路係

櫻坂を緩歩中

高 等 専 門 学 校（高 専）

高等専門学校（通称「高専」）について説明いたします。

大学の教育システムとは異なり、社会が必要とする**技術者を養成**するため、中学校の卒業生を受け入れ、５年間（商船高専は５年半）の一貫教育を行なう高等教育機関として「高等専門学校（以下『高専』と記します。）」があります。

高専卒業後、さらに深く学ぶため２年間学習する専攻科にも入学できます。また、大学の学部３年次への編入学の制度もあり道内では北海道大学や室蘭工業大学へ進学する学生が多いです。
長岡技術科学大学（新潟県）と豊橋技術科学大学（愛知県）は主に高専卒業者のために設立された国立大学です。
高専卒業者には短期大学（短大）卒業生と同じ「準学士」の称号が授与されます。また、専攻科や編入学した大学を卒業することにより「学士」の称号が授与されます。

【入学手続きについて】…（例）苫小牧工業高等専門学校

①（自己）**推薦による選抜**、②**学力検査による選抜**、③帰国生徒特別選抜、があります。
苫小牧高専の場合、（自己）推薦による選抜で１００名程度、学力検査による選抜と若干名の帰国生徒特別選抜で１００名程度、合計２００名が入学定員です。〔昨年度の定員〕

推薦による選抜では、苫小牧高専の①推薦の要件に合致しており、②第３学年の数学が４以上、かつ学習点が２５２点（Ｄランクの上位）以上で、③合格した場合は必ず入学し、合格内定とならなかった場合は、必ず学力検査による選抜による入試を受けるという条件が課せられます。〔昨年度の条件〕

入試（面接・学力検査日）は、推薦による選抜が１月１８日〔昨年度〕、学力検査による選抜が２月９日〔昨年度〕のため、学力検査による選抜では、私立高校や公立高校との併願も可能です。ただし、「専願（高専を第１志望とする。）」と「併願」があり、「専願での学力検査による選抜において合格した場合は必ず高専に入学するという条件が課せられます。〔昨年度の条件〕

学力検査による選抜では、**『北海道内４高専複数校志望受検制度』**といって、苫小牧高専の他、函館高専・釧路高専・旭川高専への同時出願が可能です。（ただし、苫小牧高専を第１志望とする専願が出願条件となります。）そのため、苫小牧高専１学科、函館高専３学科、釧路高専１学科、旭川高専４学科から最大９学科に出願することができます。ただし、２校（学科）以上に合格することはできず、志望順位が上位の高専（学科）の合格が優先されます。

道内の高専につきましては、例年、学力検査の会場が苫小牧高専の他、北海道大学工学部で行われます。また、本校からは毎年１名前後の生徒が高専へ進学しております。

●苫小牧高専の学生寮について

例年、苫小牧高専に進学した生徒（正しくは「学生」となります。）は、４月当初、自宅から通学する人が多いです。しかし、高専は「ものづくり」を中心に学ぶ学校で、放課後も「ものづくり」が続くと聞きます。実習が始まると始発列車に乗って登校し、終電列車で下校するような生活が続くこともあるといいます。そのため、自宅からの通学をあきらめ入寮する生徒が多いようです。

以前、苫小牧高専の先生が本校へ来校され、下記のような話をされておりましたのお知りおきください。

入寮希望者がたくさんおり、毎年、満室状態です。卒業等により、寮を出られた部屋の分を補充することとなります。その際、遠方の生徒を優先しています。栄南中学校区は、本校から近からず、遠からずといった地域で必ず入寮できるとお約束はできないことをご理解ください。

●あしなが育英会より

あしなが育英会より、下記の内容の通知文が中学校へ届きましたのでお知らせします。

あしなが育英会は、保護者などが病気や災害（道路上の交通事故を除く）、自死（自殺）などで死亡、または保護者が著しい障がい認定を受けている家庭の子どもたちに奨学金を交付して、進学援助を行っております。

～中　略～

なお、２０２６年度募集から、申請の方法をオンライン形式へと変更する予定です。
募集の詳細、ポスター、チラシは、募集開始である９月１日頃に改めてお送りいたします。

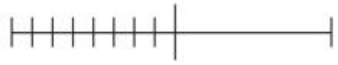
参考　奨学金：月額３０，０００円（給付）
※私立高校入学一時金（３０万円）を貸与する制度もあります。
募集人数：１０００人程度

（以上、あしなが育英会作成の文書より転記）

２学期となりますが、あしなが育英会より、募集のしおり等が届きましたら、進路通信等を通じてご案内させていただきます。

◎ｃｏｆｆｅｅ　ｂｒｅａｋ　オッペル・クント錯視

まずは右図をご覧ください。長い線は線分の「右より」、「中間」、「左より」、どの位置に見えますか。



答えは「中間」です。多くの方は、「右より」に見えたのではないでしょうか。この錯視を「オッペル・クント錯視」といいます。１００年以上前に発表された錯視で、オッペルが文献に提示し、クントが研究を深めたことから「オッペル・クント錯視」と名付けられました。

ある領域が分割されていると、脳がそのサイズを過大評価するために錯覚します。